

輝いてます

つかプーフィッシング釣り数ランキング1位

ひと

もり おか ゆう すけ
守岡 祐介 さん

釣りの魅力を子どもたちに伝える



「子どもの自由な発想を大事にしたいです」と守岡さん

さ おを引く度に水面を跳ねる魚。傍らにはいっぱいバケツ。釣り人にとっては夢のような光景を、塚越プール釣り堀で子どもたちと実現させているのが守岡祐介さん(55歳・塚越5丁目)です。このプールを初めて使ったのは小学生の授業。当時は塚越小学校の施設でした。6年生の時に市民プールに改築された後も夏になると通う日々。また、当時流行した釣りにも没頭し、市内の釣り堀や荒川などで自然と対峙する喜びを知ります。しかし、成人して仕事に熱中すると趣味の時間は減少。釣り具は手放し、プールに行くこともなくなりました。そんな折、一昨年7月に塚

越プールが釣り堀になったというニュースが。小学生の時に泳いだ場所で行う釣りは感慨深く、足しげく通うようになりしました。そして、「浮きの動きを見て感覚的に合わせたら予想外に釣れました」と、昨夏には1時間でニシキゴイを55匹釣る新記録を樹立します。そんな守岡さんの下には、たくさん釣りたい子どもたちが集うように。水深の測り方や魚があたった時の合わせ方などを手ほどきすると、弟子たちが続々と釣り数番付にランクイン。ときにはおもちやをプレゼントし、釣れたときは全力で喜びを分かち合うおじさん師匠は、「子どもは創造性の塊。見守りながらも、自分のほうが教えられています」と、交流を満喫しています。一昨年11月には小学校の恩師を招いて釣りをし、昔話に花を咲かせた守岡さん。思い出の地を拠点に、将来は、この釣り堀自慢の完全無投薬のニジマスなどを用いて、食育に携わりたい夢も持っています。形を変えながらも、子どもたちと歩んできた塚越プール。その伝道師として、魚が水面に描く波紋のように、楽しい体験を地域に広げていきます。

今月の河鍋晩斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

—No.81—



本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

晩斎筆
「鯛を捕まえる恵比須」
明治17年(1884)
紙本墨画淡彩 軸装

商売繁盛の神様として知られる恵比須様は、烏帽子をかぶり、狩衣を着て、釣りざおや魚を入れる魚籠を持ち、「恵比須顔」と呼ばれるにこやかな表情で描かれるのが一般的です。本図では、穏やかながらも真剣なまなざしで鯛を見つめ、巨大な鯛をしつかり押さえ込もうとしています。大きな鯛を釣り上げたという幸運を逃がすまいとしているのでしょうか。たくさんのお福を呼び込んでくれそうな、縁起が良く、おめでたい作品です。

河鍋晩斎記念美術館 開催中(25日まで)

企画展「晩斎・晩翠 祝画の華やぎ」展 同時開催
特別展「『晩斎能画図式』の世界」展

開 館 = 午前10時～午後4時

ところ = 南町4-36-4

休 館 = 火・木曜日(祝日除く)、26日～末日

入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円

小・中学生300円 65歳以上500円

※65歳以上は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください

詳 細 = 同館 ☎441-9780



詳しい内容は美術館のホームページを御覧ください

Kyosai
Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の晩翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 晩斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)